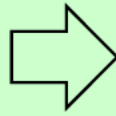


かん水によるさとうきびの単収・品質の向上

経営体の概要

事業実施前

基幹作物：(露地)さとうきび3.9ha
経営面積：3.9ha



事業実施後

基幹作物：(露地)さとうきび 3.2ha、ドラゴンフルーツ 0.3ha
(施設)マンゴー等 0.1ha
経営面積：3.6ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

本経営体は、平成15年に親から経営を引き継いで就農し、収穫期を除けば基本的に1人で経営に取り組んでいる。事業によりかんがい施設が整備されたことにより、適切なかん水が可能となり、単収・品質の向上につながった。また、ドラゴンフルーツやマンゴーを新たに導入し、収益の拡大にも努めている。

営農改善のポイント

①単収・品質の向上

さとうきびの生育が旺盛な7～9月に週1回のかん水を定期的に行うとともに、土作り等にも力を入れることで、平成27/28年産は、春植えで県の平均単収(4.7t/10a)の3.5倍(16.3t/10a)を達成し、同年のさとうきび競作会(主催：沖縄県糖業振興協会)で農林水産大臣賞を受賞した。

また、品質(糖度)についても、28/29年産に、春植えで県の平均糖度より2度以上高い17.4度を記録した。

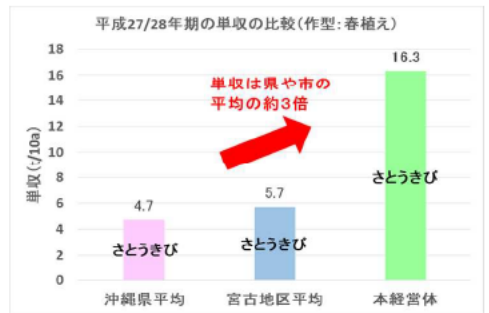
②栽培技術の確立・向上

土作りにおいては、使用する堆肥は完熟堆肥にこだわるとともに、施肥量も栽培指針で示されている量の2倍以上を施用するなど、土壌の肥沃化に努めている。

また、かん水においては、スプリンクラーのみだと散水量にムラが生じることがあるため、点滴チューブも併用することで、ほ場全体に水が行き渡るように工夫を行っている。作型については、土地利用効率の向上を図るため、今後、夏植えから春植え・株出しへの移行を更に進めていく予定。

③作物の変化

事業によりかんがい施設が整備され、農業用水を安定的に確保できるようになったことで、マンゴー等の施設栽培も可能となった。



青々と生育したさとうきび

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
関係市町：宮古島市
受益面積：9,156ha
事業期間：平成21年度～
事業目的：畑地かんがい、用水改良
主要工事：地下ダム2箇所
副貯水池1箇所
揚水機場1箇所
用水路 55km

位置図(沖縄県)



<局問い合わせ先>

沖縄総合事務局
農村振興課 地域資源係
電話：098-866-1652
(内線：83335)

(平成29年調査時点)